（別紙2-1）　　令和　7　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401335		
法人名	有限会社　藤田企画		
事業所名	グループホーム　佃の里		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町永中名47-1		
自己評価作成日	令和8年2月28日	評価結果市町村受理日	令和8年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和8年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、利用者様の過ごしやすく家庭的な生活を送って頂ける様に、利用者様の希望に添えるよう、生活を支援しています。一人一人が満足くできるよう日々、利用者様との関わりにもちからを入れています。
ご家族のご負担も最小限で、安心して入所して頂ける様に、また面会にもいつでの来て頂ける様にしています。
職員も働きやすく、楽しく負担も少なく出来るようにしています。働きやすい環境を作ることで、離職率の軽減を図り利用者様も長く関わることで安心も出てくると思います。
職員同士もとてもコミュニケーションがとれており、なんでも言い合えてお互いが協力しあえ信頼しあえる職員関係です。利用者様も職員も当施設では笑顔がたえない職場です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは、入居者一人ひとりの希望に寄り添った「家庭的な支援」を基本方針としている。個別性を尊重した関わりを重視することで、入居者の満足度向上と家族が安心して預けられる体制の両立を実現している。組織運営においては、職員の定着がケアの質に直結するという考えのもと、職場環境の整備に注力し、休暇希望に上限を設けない柔軟なシフトを編成することで、子育て中の職員のワークライフバランスを支え、低離職率に繋がっている。職員間のコミュニケーションは円滑で、管理者を含めた風通しの良い組織風土が醸成されており、チームワークに基づいたケアが可能となっている。教育面では、外部研修やeラーニングを活用し、個々のスキルアップを図っている。理念である「慣れは禁物、今日が初日」という精神が現場に浸透し、笑顔で明るい外国人職員と共に経験豊富な職員が、初心を忘れず、顔なじみの関係性を活かした安心感のあるサービスを提供している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

（別紙2-2）

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム　佃の里

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員を目指し、近隣との付き合いを大切にしするようにしている。なかなか、実践につなげることがなかなかできないときもあるが、管理者が日々声かけを行いながら、また職員会議などで声かけし、実践につなげていく。	理念「慣れは禁物 今日が初日」を事務所内に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。職員には入社時に説明すると共に、理念を日々の業務に浸透させ、入居者への丁寧な声かけや介護技術の実践において、初心に立ち返る姿勢が共有されている。管理者を筆頭に全職員がこの価値観を指針とするよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の中学校、小学校からの体験を依頼があれば受け入れている。本年度は中学校より1名受け入れあり。	地域交流を重視し、今年度は中学生の職場体験（3日間）の受け入れや法人による地域清掃活動に職員が参加している。自治会への加入はないが、近隣住民が広報誌を持参するなど良好な関係が構築されている。地域の駐在所署員へ運営推進会議への参画を促すなど、防犯・防災面での連携強化にも積極的である。住み慣れた地域で支え合う体制づくりに注力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談の受け入れは可能である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況を知らせると共に地域の情報など話題としている。ご家族への参加も面会の折りなどを利用して呼びかけているがなかなか時間が合わず参加が難しい。 来年度より家族へ年間予定や開催日近くに案内を送付する。	運営推進会議は行政・地域代表・法人専務・職員・駐在署員（依頼中）等で構成され、欠席者には資料郵送と意見書回収により参画を促している。家族の参加が困難な現状に対し、議事録送付で状況共有に努めるほか、面会時にも参加を促す呼びかけを行っている。管理者は、次年度から年間の会議実施予定表を事前に配布し、開催直前の案内送付を実施することで、家族を含めた多様な意見を反映できる体制の強化を図る意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会などで報告し様々な視点からの意見をいただき相談相手になってもらっている。やってほしい研修会などを提案している。地域ケア会議へ参加し、情報提供を行っている。	行政とは日頃から連絡を取り、研修案内や助成金申請、地域の感染状況などの情報共有を通じて連携体制を構築している。グループホーム連絡協議会が主催する研修へ参加し、職員の専門性向上を図っている。また、地域ケア会議への参画や運営推進会議での報告を通じ、外部の多様な視点から助言を得るなど、開かれた運営と地域に根ざした支援の質の向上に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で身体拘束を取り入れて、何が拘束なのかをスタッフが共有し常に良い方向を探している。社内での介護職員の研修会や社外の研修に積極的に参加させ再度スタッフへの周知徹底、指導を行っている。	訪問調査時において身体拘束が必要な入居者はいない。身体拘束委員会は運営推進会議のメンバーで構成され報告・共有される体制である。職員教育については、Eラーニング研修による自主学習を実施している。現場では「振り返ろう、自分の行動相手の気持ち」等のスローガンを掲示して意識啓発に努めるほか、管理者が職員の言動に対し適宜助言・指導を行うことで、拘束のない尊厳ある支援の徹底に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より困難な介護については全員で共有し、一人で抱え込まないように声に出すようにしている。また、一人一人の介護技術を見てどこまでが虐待につながるかなど注意を促している。 また、介護に不安があるかなどの声掛け、利用者様の介護のやり方がわからないなどの声を聞いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての紹介を行っている。勉強会への参加もしている。 広域基礎研修等への参加を促し学ぶ機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については十分に行っている。又、後日の質問についても納得されるまで説明をし、同意を得ている。 いつでも問い合わせができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や希望は届きにくいのが現状だが、面会に来られた際などに家族からの意見などがないか聞き出し、運営に生かし利用者家族が満足いく運営ができるよう努力している。 通信などの配布をするようにしているが、担当職員がやめるなどでできていないのが現状。	家族との面会時やSNSを活用したコミュニケーションを図っている。家族からの要望や聞き取った情報は申し送りノートに記録し、全職員で共有する体制を敷いている。家族アンケートでも満足しているとの評価であり、家族と信頼関係を構築していることが窺える。感染状況に応じた面会制限下においても、家族との対話を継続することで、入居者・家族双方の安心に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の間には大差がない、気付きを取り入れ、よりよい運営を目指している。 毎月の職員会議での職員の意見・提案ができるように、努力している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、現場の意見や要望を柔軟に汲み取っている。長年勤務するベテランに加え、明るい外国人職員も加わり、活気あるチームワークが構築されている。職員の具体的な提案に対し、管理者が迅速に対応することで職員の参画意欲を高めている。子育て中の職員のシフトを柔軟に調整する等、相談しやすい風通しの良さと信頼関係が、働きやすい職場環境の基盤となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の見直しを行い、資格等向上意欲が持てるよう改善している。また、改善点などを聞き、受け入れ、可能な事は改善し働きやすい就業環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護労働安定センター等の紹介による講師を招き『介護技術』『医学の知識』『リスクマネジメント』等、法人内の研修を合同で行っている。 また、人事評価をし一人ひとりの力量把握をして指導等行っている。 わからないことがあれば聞き対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会等への参加を義務付けている。個々に研修内容を選んで受講している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族よりの情報提供を出来るだけ詳しく聞く。入所後はスタッフが詳しく観察し連携を図り、利用者の安心・安全を確実に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どこまで要望に答えられるかをはっきり相手に伝え、その中でよりBESTな方法を提案し要望に近い状態へ持っていけるように対応している。 また、こちらからも良い提案をさせていただき相談させて貰っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって何が今一番必要なのかを行動・言動を職員間の情報共有から見極め、支援サービスに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症とか弱者とか隔たりなく生活している。どうかすると利用者がしっかりされている時がある。「皆家族」の雰囲気の中で入所者・スタッフが共に生活している。泣いたり・笑ったりの繰り返し。 時間があると常に利用者との会話・レクリエーションを楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に共に支えあえる関係でありたいし、本人にとって家族が一番。 信頼関係を築くには共に歩くより他はない。 利用者様との会話の中でご家族に話などを聞き家族との絆を再確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所・友人などが気軽に立ち寄る雰囲気作りを行っている。デイサービスに来られたり、整骨院の帰りに寄られたり、自治会の方の面会もあり交流が続いている。	入居前の馴染みの関係が途切れないよう、隣接するデイサービス事業所利用者や近隣住民が気軽に立ち寄れる環境づくりに努めている。地域住民の高齢化に伴い関係継続が困難になりつつある現状に対し、職員と一緒に買い物支援や、近隣小学校への花見など、外出機会を創出している。馴染みの人や場所との接点を維持することで、入居者が社会との繋がりながら生活できるよう、支援を実践している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者間の橋渡し役となりコミュニケーション作りを行い、なかなか話す機会のない利用者と話す時間を作ったり、ロビーに集まりやすい環境を整え、よい環境作りができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後もご家族との付き合いもあり時々、近所に来られたり立ち寄られたりされる。 退所時にも、一声、かけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体で動かれている困難な時は家族と相談して家族に協力できるところは協力していただきできない時は職員で対応している。	難聴の入居者に対し、ホワイトボードを用いた筆談やジェスチャーを活用し、円滑な意思疎通に努めている。また、必要に応じて家族から生活歴等の情報を収集し、個々の特性に合わせたケアを実践している。静かな環境を好む入居者には、自室でのラジオ・テレビ鑑賞や食事の提供など、個人の時間を尊重する環境を整備している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何よりもご本人の生活歴がサービスの基本である。ご家族や本人との会話の中より把握しレクリエーションの時間などに利用者の方の好きだった事など行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調に合わせて臥床を促したり、ロビーにてレクリエーションに参加していただいている。長期入所でだんだん能力も低下していることを家族へも伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	忙しい時間でなかなか、座る時間もないのでスタッフ間の立ち話も無駄にしない、情報は宝であり毎月職員間の話の時間を作りしっかりとどんな小さなことでも、情報交換・共有を行っている。	管理者は日常的な観察を通じて入居者の心身状況を把握し、現場職員によるアセスメント結果と統合して計画作成担当者へフィードバックを行っている。これに基づき策定される介護計画は、モニタリングの結果と連動しており、全職員間で進捗を共有している。評価結果を短期・長期目標へ反映させるサイクルを確立することで、入居者の状態変化に応じた適切な支援を継続している。	入居者の真のニーズを把握する上で、その方が発した言葉の記録は重要な情報源となる。現状、介護記録における入居者の言葉の記載は少ないため、必要に応じてその方の発言をそのまま記録することで主観を排除した客観性のある記録となるものと思われる。これにより記録の信頼性が向上し、ケアの質の正当な評価や適切な介護計画策定の根拠となり得るものと思われる。今後は発言時の状況や表情を含めた記録を習慣化し、個別支援に繋げることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに細かく記入し、いつだれが見ても振り返りができるように指導し、記入漏れがないか確認を行い確実に行うようにしている。 タブレット導入で現在、同時進行でより共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの協力を得ながらその時の状態に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りが田園地帯であり季節感が肌で感じることが出来る。又近くに小学校があり子供たちの元気な声が聞こえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ協力医療機関での受診であるが、中には以前からのかかりつけ病院での受診の方もおられるつながりを大切にして行きたい。	緊急時対応を含め、協力医療機関との連携体制を構築している。入居者の意向を尊重し、入居前からのかかりつけ医」継続受診を可能としており、雲仙市内の受診については職員が同行し支援している。遠方の受診には家族が付き添うなど、柔軟な分担を図っている。また、歯科については月2回の訪問診療を導入しており、口腔ケアの維持・向上に努めるなど、日常的な健康管理体制を整えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師は外部との契約であるが、とても熱心で相談も心安くできる。 隣のはデイサービスの看護師もいるので、何かあれば相談させてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合はほとんどが協力医療病院であるので　相談がしやすい。家族との連携も取りやすい。 家族対応などが難しい時などをホームが協力できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りの説明を行っている。必要となってきたとき改めて家族・医療機関との話し合いを持ち、どのように対応するか決めている。 また、職員も看取りについて学んで、対応ができるようにしていきたい。	看取りに関する指針を整備し、入居時に家族へ説明し同意を得る体制を構築している。直近10年ほど看取りの実績はなく、現在は医師の判断に基づき、医療的措置が必要な場合は入院となるケースが主である。しかし、入院後も概ね3ヶ月間は居室を確保し、状態安定後の再入居を可能とする配慮がなされている。今後は、看取り支援が可能となるよう、医療機関との連携強化に向けた検討を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変については予期し、スタッフで共有している。対応はマニュアル化しすぐに対応できるように見えるところに掲示している、また急変時対応の勉強会にも積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難誘導訓練・自主訓練等行っている。災害対策等はスタッフの中にいる地区消防団員が中心になって行っている。また地域の自衛消防の大会などに参加して一人一人の意識向上に努めている。職員が必ず参加できるように勤務調整をし災害に備えての準備ができるようにしている。	今年度は8月と12月に避難訓練を実施している。業者による消防用設備点検も定期的に実施している。自衛消防組織編成表（通報・消火・避難誘導・救護）を事務所に掲示して全職員への周知を図っている。また、雲仙市のハザードマップを廊下に掲示して可視化するほか、非常持ち出し用ファイルを事務所に備え、個人用の首掛け型も作成するなど、緊急時に迅速な行動がとれるよう備えている。	今後は、避難訓練実施日の地域住民への周知や、消防団員である職員の知見や人脈を活かして訓練への地域住民の参加を促すなど、近隣住民との協力体制を具体化させることを期待したい。災害時に備え、地域社会と顔の見える関係を構築し、相互に支援し合える避難体制の確立に期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの言葉がきつくないか常に気に留めるようにしている。気にかかるような対応があった場合は職員が変わり対応している。	研修計画に基づき、接遇やアンガーマネジメント研修を導入して職員の資質向上を図っている。虐待防止・身体拘束廃止の委員会を通じた定期的な学習機会に加え、ホーム随所に啓発標語を掲示することで、不適切な言動を戒める意識付けを徹底している。また、SNSによる情報発信時に伴い、家族の同意を得るなど、入居者の尊厳とプライバシー保護に配慮した運営に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望を聞くようにしている。 希望があれば家族へ伝えている。又家族の思いを本人に伝え、自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調により対応し本人の希望がある場合は時間を作り希望の対応ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調により対応し本人の希望がある場合は時間を作り希望の対応ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の機能低下により見守り、介助が必要となり一緒に食事をすることができなくなった。 準備等はできる方にはお願いをして一緒に行ってもらっている。	食事は3食ともホーム内での手作りを提供しており、職員とともに入居者が買い物に同行することもある。個別の配慮として、アレルギーや食事形態を明記したプレートを作成・共有している。また、身体機能に応じた食器の工夫や、できる範囲での家事（配膳準備等）への参加を促し、生活意欲の維持に努めている。調理場への情報掲示に加え、外国人職員が積極的に声を掛けながら介助に当たるなど、個々に寄り添った食事支援が実践されている。	食事提供について、現在は職員体制等により夕食が16時台となる場面が見受けられる。しかし、一般的な生活リズムに照らすと早い時間帯の提供であり、生活の質の観点から課題が残る。今後は人員配置や業務フローを精査し、職員の負担軽減を図りながらも、段階的に食事提供時間を後ろ倒しにするなど検討することが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みができにくくなっている人にはトロミ剤を使用し、誤嚥が無いように気を配りながら介助している。また嚥下の状態をしっかり確認し無理なく食事をしていただいている。 定期的な水分時間や食事時には、状態に合わせてではあるが、全量摂取できるような声掛け、体制つくりをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず全員の口腔ケアを見守り、介助で行っている。また、家族・本人が希望する場合は連携歯科医院て定期検診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄がある場合は訴えてもらうように声かけを行うことと、時間誘導を行っている。ご本人の希望をできるだけ尊重しトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用し、入居者個々の排泄パターンやニーズを把握した上で、個別性の高い支援を展開している。全居室にトイレを完備し、プライバシーと安心感に配慮した環境を整備するとともに、自立可能な入居者に対しては、ADLの維持・低下防止を目的とした適切な声かけや見守りを行い、自立支援に取り組んでいる。また、夜間の転倒リスクが高い入居者に対しては、居室内に夜間のみポータブルトイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立を提供している。慢性疾患をそれぞれ持って入ってこられるので、それぞれの体調機能に合わせて提供し、排泄管理から排便状況を確認し調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその入浴日は決めているが病院受診などがあったり面会などで入れなかったりしたときは日や時間を変更して行っている。本人の希望にも対応するようにしている。	機械浴を導入し、身体機能に制限がある入居者を含め、全員が湯船に浸かり入浴できるよう支援体制を整えている。また、職員の身体的負担軽減（腰痛予防等）にも寄与している。入浴は週2回を基本とし、個浴の活用によって、他者の目を気にせずゆったりと過ごせる環境を確保している。また、病院受診や当日の体調不良等により入浴が困難な場合でも、振替実施や清拭への切り替えなど、個々の状況に応じた柔軟な調整が行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の逆転がないようにに支援している。熟睡時間などをチェックしている。一人ひとりが、ゆっくりと休めるような空間を提供できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局を決めているため薬剤師の方に相談しやすい。 薬剤師が直接担当医と話をしてくださるので心強い。 また研修でも薬に関しての講習を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事への取り組みでそれぞれに得意・不得意があり気分を壊さないように見守りながら行っている。レクリエーションをし、歌やゲーム・体操をして楽しまれるような環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との触れ合いをされている方もいるがほとんどが中々面会もない。スーパーなど大型点へお買いものに行っている。また、少しの散歩やドライブにも出かけている。外出ができない方は天気の日に外でおやつなど食し風景などを楽しんでもらう。	家族の協力を得た外出機会の確保や、天候の良い日にはホーム内の庭やテラスを活用し、屋外でのティータイムを設けるなど、リラックスできる環境づくりに注力している。また、季節感の享受を目的とした近隣小学校への花見なども実施されている。今後、管理者は、蓮園や牧場、コスモス観賞など、季節の移ろいを感じられる多様な外出レクリエーションを実施したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	在買い物に行かれる方は少なく、行こうとされる方も少ないため、対応していないが、機会がありいかれた場合は、本人から直接支払ってもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにいる子供さんや親戚の方から写真などをもらい部屋へ飾っている。入所時などにも電話でも対応も可能ですと伝えて、少しでも支援ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすでの生活者が増え、手押し車利用者の人が躓いたり、転倒したりしないよう、又車いすの人がぶつからないよう注意を払っている。レクリエーションで作った作品を季節に合わせて展示している。自分の作品を見ながらニッコリされる。	入居者の動線を考慮したテーブル・ソファの配置を行い、安全性と利便性を両立させている。毎日日勤者が朝から清掃を実施し、午前6時ごろには夜勤者が換気を実施している。空気清浄機や加湿器を常設し、適切な温湿度管理と空気質の清浄化を徹底することで、感染症対策と居心地の良い空間づくりを両立させている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ顔が見える場所での生活を心がけ、一人居室にこもることのないように声掛けを行っている。ロビーでも利用者同士が話しやすい環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段よりご本人が使い慣れたものを、持って来てもらい安心できる場所においてもらっている。長年慣れ親しんだ物や家族が持って来られるもので、自分の部屋作りをされている。	居室への私物持ち込みについては特段の制限を設けず、位牌や仏壇等の設置も柔軟に受け入れている。テレビやラジオ、使い慣れた調度品などに囲まれた環境を整えることで、入居による生活環境の変化を最小限に抑えた居室づくりを支援している。また、各居室には洗面台およびトイレが完備されており、利便性とプライバシーの双方が確保されている。こうした環境整備は、入居者が自分らしさを維持しながら安心して生活を送るための基盤となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリヤフリーでありトイレなど車いすで自由に動かれる。トイレ移乗など必ずスタッフが付き添い安全の確認を行っている。自室まではできるだけ自立で動いてもらっている。		